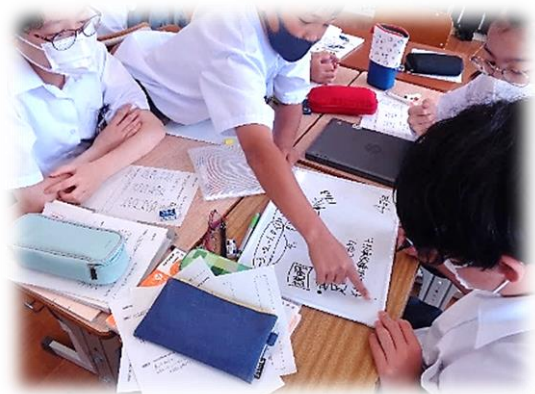


第37回 中学校教育研究発表会(中間)のご案内

共通研究主題

学びの意義を実感し
自ら学び続ける生徒を育成する
指導と評価の在り方



日時 令和4年11月16日(水)12:40~16:30

会場 岡山大学教育学部附属中学校

主催: 岡山大学教育学部・岡山大学教育学部附属中学校

後援: 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

研究発表会(中間)

共通研究主題

学びの意義を実感し自ら学び続ける生徒を育成する指導と評価の在り方

学校教育目標「自主自律 豊かな心で たくましく」の基、各教科が意義や価値を実感できる学びを計画・実施し、評価の場面や方法において適切にフィードバックを行うなどの工夫・改善をすることで、自ら学び続ける生徒の育成をねらっています。今年では中間発表会を開催し、各教科の研究主題に基づいた授業実践を公開いたします。



開催日時 **令和4年11月16日(水)12:40~16:30**

| | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----------------|----|-------|----------|----------------|-------|----------------|--|-------|
| 12:10 | 12:40 | 13:00 | | 13:50 | 14:10 | | 15:00 | 15:20 | | 16:30 |
| 受付 | 開会 説明 | 公開授業Ⅰ (50分) | 移動 | 受付 | 開会 説明 | 公開授業Ⅱ (50分) | 移動 | 研究協議会 (70分) | | |

会場 **岡山大学教育学部附属中学校**

〒703-8281
岡山市中区東山2丁目13番80号
TEL:086-272-0202
FAX:086-272-7941

対面とオンライン併用で開催



参加申込

下記申し込みフォームもしくはQRコードから必要事項をご入力の上、**11月7日(月)まで**にお申し込みください。新型コロナ対策のため、**教室に入れる人数は16名まで**といたします。参加申し込みが定員を超えた場合、先着順としますので、ご了承ください。社会情勢の影響で急遽中止になる場合もございます。その際はメール及び本校webページにてお知らせいたします。

(申し込みフォーム) <https://forms.gle/Gcq28ssGshi29mmG8>

(本校webページ) <https://chugaku.fuzoku.okayama-u.ac.jp/>



参加費

無料

連絡事項

対面参加の場合は、当日会場でお渡しする問診票にご記入いただき、受付にご提出ください。また、名札をお持ちください。弁当等の販売はありません。

各教科による公開授業

○事前録画配信 ※11月14日ころ、本校 web ページにUPします

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|----|-----------------|-------|----|--------|
| 数学 | 関数 $y=ax^2$ の利用 | 3年C組 | | 猪木 実奈子 |

○公開授業 I (13:00~13:50)

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|----|------------------------------------|-------|-------|-------|
| 社会 | 公民的分野 日米安全保障条約と平和主義 | 3年D組 | 3年D組 | 三村 脩祐 |
| 理科 | アクアポニックス(地球システムの縮図)につながる持続可能な水槽の考察 | 2年E組 | 第2理科室 | 坪田 智行 |
| 英語 | 日本の魅力を伝えよう~やりとりで深める~ | 2年D組 | 2年D組 | 佐藤 葵 |

○公開授業 II (14:10~15:00)

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|------|---|-------|-------|--------|
| 国語 | 単元五「その〇〇は如何なものか」 | 3年E組 | 3年E組 | 釘持 太一 |
| 社会 | 地理的分野 東北地方 「祭りや年中行事の伝統とその変化」 | 2年A組 | 2年A組 | 渡邊 晶 |
| 数学 | 円の性質 | 3年D組 | 3年D組 | 横林 慎也 |
| 理科 | エネルギーで考える「地球」 | 3年B組 | 第3理科室 | 岩田 和徳 |
| 音楽 | 同じと違い~曲の魅力を読み解こう~ | 1年D組 | 音楽教室 | 三村 悠美子 |
| 美術 | 動詞ようもある形 | 2年C組 | 美術教室 | 武田 聡一郎 |
| 保健体育 | 球技(バレーボール) | 1年B組 | 体育館 | 藤本 浩輝 |
| 技術 | 紙で丈夫な橋を考えよう 部材を丈夫にする方法 | 1年E組 | 第3技術室 | 日向 洋平 |
| 家庭科 | 幼稚園へ行こう~プロフェッショナルに学ぶ~ | 2年E組 | 被服室 | 日浦 基子 |
| 英語 | How to write/talk logically ~三角ロジックを用いた論の展開~ | 3年C組 | 3年C組 | ボンド 良子 |

○各教科の研究主題

| 教科 | 研究主題 |
|------|--|
| 国語 | 考えを自覚的に表現する生徒の育成 ~「話す」力を鍛えるカリキュラムの在り方~ |
| 社会 | 自己と社会のつながりを実感し、課題に対する納得解を導こうとする生徒の育成 |
| 数学 | 問いを生成し、数学を探究する生徒の育成 |
| 理科 | 自然の事物・現象を複雑系で捉え、科学的な探究を通して、課題を解決しようとする生徒の育成 ~システム思考を促す理科のカリキュラム~ |
| 音楽 | 豊かな創造性を備えた生徒の育成 ~生活や社会における音楽の意味や価値を探ることを通じて~ |
| 美術 | からだで感受し、考え、表現する生徒の育成 |
| 保健体育 | 豊かなスポーツライフを実現する生徒の育成 ~「ゲーム」としてスポーツをとらえた指導と評価の工夫~ |
| 技術 | 生産者の視点から、課題の解決に向けて取り組む技術教育 |
| 家庭科 | 他者とつながる力を高め、SDGs を意識したよりよい生活を創造できる生徒の育成 ~家族・家庭生活領域の学びを深める指導と評価の工夫~ |
| 英語 | 円滑なコミュニケーションを図るために、考えや思いを即興で伝え合うことができる生徒の育成 ~話すこと(やりとり)におけるパフォーマンスを向上させるフィードバックの工夫~ |

公開授業の内容

○事前録画配信 ※11月14日ころ、本校 web ページにUPします

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|-----|---|-------|----|--------|
| 数 学 | 関数 $y=ax^2$ の利用 | 3年C組 | | 猪木 実奈子 |
| | 複数人の100m走の記録を提示し、それを基に4×100mリレーで勝つためには、どのような作戦が有効かを考える場面を設定する。グラフの操作等の数学的活動を通して、複数の数学的要素を組み合わせ、根拠を明確にして課題解決をする。 | | | |

○公開授業 I (13:00~13:50)

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|-----|---|-------|-------|-------|
| 社 会 | 公民的分野 日米安全保障条約と平和主義 | 3年D組 | 3年D組 | 三村 脩祐 |
| | 平和主義を大前提に置きながら、日米安全保障条約に基づき、どのような日米関係を構築していくべきか、また、現在の世界情勢に目を向けながら今後の日本の安全保障はどうあるべきか、などについて自分なりの納得解を導き出す。 | | | |
| 理 科 | アクアポニックス(地球システムの縮図)につながる持続可能な水槽の考察 | 2年E組 | 第2理科室 | 坪田 智行 |
| | 魚や水草を入れたいくつかの水槽を提示し、生物のからだのつくりとはたらきの視点から水槽内での物質のバランスについて考える。また、それらを人間の生活環境に置き換えて考えることで、持続可能な水槽についての考察を行う。 | | | |
| 英 語 | 日本の魅力を伝えよう~やりとりで深める~ | 2年D組 | 2年D組 | 佐藤 葵 |
| | 比較級を用いて、自分が思う「日本の〇〇」についてALTに紹介するパフォーマンス課題に向けて、ICT機器の活用や、他者とのやりとりの中での気付きを受けとるなど、様々なフィードバックを基に、より良い紹介にするための改善策を考える。 | | | |

○公開授業 II (14:10~15:00)

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|-----|---|-------|------|-------|
| 国 語 | 単元五「その〇〇は如何なものか」 | 3年E組 | 3年E組 | 劔持 太一 |
| | 本時では多様な「話す」の中から「説得する」を取り上げる。「説得する」ために必要な要素を捉えたり、評価の観点を見いだしたりして、その本質に迫る。相手や状況、場面に応じてどのように話すべきかについて論理的に考え、「話し方」を工夫できる生徒の育成を目指す。 | | | |
| 社 会 | 地理的分野 東北地方 「祭りや年中行事の伝統とその変化」 | 2年A組 | 2年A組 | 渡邊 晶 |
| | 生徒も一度は聞いたことのある、ねぶた祭や竿燈まつり。これらの雄大な祭りがどのようにして支えられているのかを資料などを基に生徒が話し合う中で見いだす。最後にはこれらの祭りを継続していくことの価値についても生徒たちが考え、自分たちなりの答えを導き出す。 | | | |
| 数 学 | 円の性質 | 3年D組 | 3年D組 | 横林 慎也 |
| | ICT 端末を利用した実験やシミュレーションを通して、円周角と中心角の関係について考察する。円周角の定理やその逆を具体的な場面から帰納的に見いだすことで、円の性質の理解を深めるとともに、演繹的な証明の必要性が感じられるようにする。 | | | |

○公開授業Ⅱ(14:10～15:00)

| 教科 | 内容 | 学年・学級 | 会場 | 授業者 |
|------|---|-------|-------|--------|
| 理科 | エネルギーで考える「地球」 | 3年B組 | 第3理科室 | 岩田 和徳 |
| | 鉄球が非弾性体の上に落下したとき弾まない現象に問題を見いだす。そして、力学的エネルギーがどのように移り変わったのかについて仮説を立て、実験の結果を基に考察を行う。次に、「地球」を柱とする領域において、「エネルギー」の視点を用いて、ある火成岩の成因について考える。 | | | |
| 音楽 | 同じと違い～曲の魅力を読み解こう～ | 1年D組 | 音楽教室 | 三村 悠美子 |
| | 楽曲が同じでも演奏する楽器の音色が違うことで生み出される曲想の違い、同じテーマを基につくられていても作曲家の音楽表現の創意工夫によって生み出される曲想の違い等、「〇〇が同じでも、・・・が違うことで生まれる曲想の違い」に着目して鑑賞する。 | | | |
| 美術 | 動詞ようもある風景 | 2年C組 | 美術教室 | 武田 聡一郎 |
| | 風景の中から「動詞 (=動き)」を探す。教室の外に出て、自分の「からだ」で、様々な「動詞」を感じ取る。それぞれが見つけた「動詞」のイメージを、一枚のベニヤ板を使って表現する。何気なく見ていた風景が、少し違って見える。 | | | |
| 保健体育 | 球技(バレーボール) | 1年B組 | 体育館 | 藤本 浩輝 |
| | 「自コートでつなぎ、相手コートへ落とす」ためのチームの課題を設定し改善していく。バレーボールをゲームとしてとらえ、チームとして設定した課題を評価・改善しながらプレイフルにバレーボールのゲームを楽しむことができるようにする。 | | | |
| 技術 | 紙で丈夫な橋を考えよう 生産者の視点を知ろう | 1年E組 | 第3技術室 | 日向 洋平 |
| | 紙を材料に橋を作り、橋としての機能性の観点から、工夫を凝らして様々な特徴をもった橋の製作を行う。機能性だけでなく、省エネルギー化、経済性など、技術の見方・考え方を生産者の立場で思考し、生産者側の視点を広げていく。 | | | |
| 家庭科 | 幼稚園へ行こう～プロフェッショナルに学ぶ～ | 2年E組 | 被服教室 | 日浦 基子 |
| | 保育分野の専門家からのアドバイスや幼児の発達段階を参考に、幼稚園訪問でのよりよい出会いのために幼児とのかかわり方の工夫を考える。Chromebookのカメラ機能を活用しながら、グループ内で相互評価を行うことにより、次時の発表に向けてブラッシュアップする。 | | | |
| 英語 | How to write/talk logically ～三角ロジックを用いた論の展開～ | 3年C組 | 3年C組 | ボンド 良子 |
| | AI 翻訳ツールやALTの支援等、様々なフィードバックを受けとりながら、「宿題は必要か、不要か」という論題に対する自分の意見を三角ロジックの視点を用いて述べる。また、相手の意見に対して、切り返しの表現を用いて反論したり質問したりして、英語によるやり取りを続ける。 | | | |

各教科の研究の概要

○各教科の研究主題

| 教科 | 研究の概要 |
|----|--|
| 国語 | 考えを自覚的に表現する生徒の育成～「話す」力を鍛えるカリキュラムの在り方～ |
| | 本校国語科では、1年時から継続して論理の学習を行うことで論理的思考力を育成し、それを基盤とした批判的思考を働かせることができる生徒の育成を続けてきた。本研究では、これまでの指導方法を生かしながら、「話すこと・聞くこと」に着目したカリキュラムの在り方を模索することとした。「話す」ことの本質を理解した上で、自らの考えを表現し他者と協働することは、これからの社会を生き抜くために必要なことだと考える。 |
| 社会 | 自己と社会のつながりを実感し、課題に対する納得解を導こうとする生徒の育成 |
| | 現代社会の諸課題は、答えのない問いが多くある。そこで本校社会科では、「自分事として捉えること」「納得解を導き出すこと」を大切にしている。現代社会の諸課題と自分を結び付け、自分事として捉え、また他者と協働しながら学び、納得解を導き出すことによって学びの意義を実感することができる生徒の育成を目指している。 |
| 数学 | 問いを生成し、数学を探究する生徒の育成 |
| | 数学的活動における問題発見・解決の過程として示されている【現実の世界】と【数学の世界】について、生徒が自立的、協働的に目的意識をもって遂行する姿を本校数学科では「探究する生徒」と考えている。教科の枠組みの中で探究的な活動を実現するために、学習者の課題意識の変化に注目し、単元構成や評価の在り方について提案したい。 |
| 理科 | 自然の事物・現象を複雑系で捉え、科学的な探究を通して、課題を解決しようとする生徒の育成～システム思考を促す理科のカリキュラム～ |
| | 「持続可能な社会づくり」のための課題解決に必要な能力・態度のひとつに多面的・総合的に考える力がある。本校理科では、その力をシステム思考と捉えて研究を行ってきた。システム思考を促すことは、複雑に作用しあう自然の事物・現象を探究する理科の学びにおいては重要である。これからの時代に求められる資質・能力を育むために、システム思考を促す理科のカリキュラムを提案する。 |
| 音楽 | 豊かな創造性を備えた生徒の育成 ～生活や社会における音楽の意味や価値を探ることを通じて～ |
| | 音楽科では、「豊かな創造性を備えた、持続可能な社会の創り手を育てる」ことを目指し、研究を進めている。生徒の「創造性」の広がり、深まり、高まりにつなげるため、どのように音楽の学びと生活や社会を結び付けて題材を構成しているか、生徒が音楽の意味や価値を探る場面を設定しているか、教師は生徒のどのような姿からそれを見取ろうとしているかについて提案する。 |

| 教科 | 研究の概要 |
|------|--|
| 美術 | <p>からだで感受し、考え、表現する生徒の育成</p> <p>「新たな価値をつくり出すこと」について、「からだ」に着目して考えてみたい。生徒が、感じ取ったり、考えたり、表現したりする主体が自らの「からだ」であると実感し、「からだ全体」で創造するためのカリキュラムや題材を提案する。また、教師が生徒の姿から何を見取り、どのようなフィードバックを行えばよいのかについて考え、「からだで感受し、考え、表現する生徒の育成」を目指す。</p> |
| 保健体育 | <p>豊かなスポーツライフを実現する生徒の育成 ～「ゲーム」としてスポーツをとらえた指導と評価の工夫～</p> <p>保健体育科では「豊かなスポーツライフを実現する生徒の育成」を目指し、研究を進めている。豊かなスポーツライフの実現のために、スポーツを「ゲーム」としてとらえ、生徒がプレイフルに仲間とともに楽しみながら学んでいく指導と評価の工夫について提案する。</p> |
| 技術 | <p>生産者の視点から、課題の解決に向けて取り組む技術教育</p> <p>「持続可能な社会づくり」のための課題解決にむけて、技術科では「技術の見方・考え方」を重点的に授業に取り組んでいるが、今回の研究では、特に生産者の視点をテーマにした。各種単元や題材の随所で取り上げ、消費者の考えと生産者の考えをより密接に関連付けて考えられる生徒の育成を目指す。</p> |
| 家庭科 | <p>他者とつながる力を高め、SDGsを意識したよりよい生活を創造できる生徒の育成 ～家族・家庭生活領域の学びを深める指導と評価の工夫～</p> <p>「幼稚園訪問」を軸に、家族をはじめ友達、保育の専門家、園児などさまざまな人びとと関わることで、他者とつながる力を高め、SDGsを意識したよりよい生活を創造できる生徒を目指す。家族・家庭生活領域（保育）のカリキュラムの工夫と評価の在り方を模索する。</p> |
| 英語 | <p>円滑なコミュニケーションを図るために、考えや思いを即興で伝え合うことができる生徒の育成 ～話すこと(やりとり)におけるパフォーマンスを向上させるフィードバックの工夫～</p> <p>目的・場面・状況に合わせて、積極的に自分の考えや思いを英語で伝えようとする力を育てるために、話すこと（やりとり）に焦点を当て、ICT機器・他者とのやりとり・ALTからの評価など、様々な視点でのフィードバックを行うことで、自分の課題をメタ認知し、円滑なコミュニケーションを図る力を身に付けた生徒の育成を目指す。</p> |



○研究協議会(15:20~16:30)

| 教科 | 指導助言者 | 会場 |
|------|---|--------------------|
| 国語 | 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 室川 基 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 宮本 浩治 | 3年E組 |
| 社会 | 岡山県教育庁義務教育課 指導主事(主幹) 仁後 知佳 岡山大学学術研究院教育学域 教授 桑原 敏典 岡山大学学術研究院教育学域 教授 山田 秀和 | 2年A組 |
| 数学 | 岡山市教育委員会事務局指導課指導副主査 太田 耕司 岡山大学学術研究院教育学域 教授 岡崎 正和 | 3年D組 |
| 理科 | 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 谷本 薫彦 岡山大学学術研究院教育学域 教授 藤井 浩樹 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 川崎 弘作 | 第1理科室 |
| 音楽 | 岡山県総合教育センター企画部 指導主事 谷口 香織 岡山大学学術研究院教育学域 教授 小川 容子 | 音楽教室 |
| 美術 | 岡山県総合教育センター研修部 指導主事(班長) 田井 良和 岡山大学学術研究院教育学域 教授 清田 哲男 | 美術教室 |
| 保健体育 | 岡山県教育庁保健体育課 指導主事(主任) 宮崎 准二 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 原 祐一 | 図書室 |
| 技術 | 岡山県総合教育センター企画部 指導主事 難波 玄 岡山大学学術研究院教育学域 教授 入江 隆 | 第3技術室 |
| 家庭科 | 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 岩佐 奈津子 岡山大学学術研究院教育学域 教授(特任) 考藤 悦子 | 被服教室 |
| 英語 | 岡山市教育委員会事務局指導課 指導副主査 佐藤 泰輔 岡山大学学術研究院教育学域 教授(特任) 高塚 成信 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 小山 尚史 | International Room |

交通案内

JR 岡山駅から路面電車「東山行」に乗車
終点「東山・おかでんミュージアム駅」から
南に徒歩5分

お問い合わせ

岡山大学教育学部附属中学校
Tel :086-272-0202
Mail:tetsuro.yonebayashi@
okayama-u.ac.jp
研究主任 米林哲郎

